

日本医学会分科会活動報告

日本生体医工学会 理事長
守本 祐司

貴学会の加盟学会として以下の通り活動報告をいたします。

[分科会としての活動]

弊学会の日本医学会分科会としての過去5年間の活動の自己点検について。

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
 - a. 特に学術的に重要と考えられるもの
 - b. 当該領域における国際的な役割
 - c. 活動からもたらされる社会的な意義
 - d. 学会運営上留意している点

日本生体医工学会では医学に工学技術を取り入れて、生命現象を明らかにするとともに、診断や治療に有効な手段を提供する生体医工学の分野で、大学や研究機関などで行った研究成果を発表し、情報交換を行う機会を提供しています。

また国際的には、IFMBE Asia Pacific Group 主催の The 11th Asia Pacific Conference on Medical and Biological Engineering (APCMBE 2020) を 2020 年 5 月 25 日-27 日、岡山より web 開催された第 59 回日本生体医工学大会と併催で web 開催いたしました。その一環として、日本生体医工学会、IFMBE Clinical Engineering Division, 日本臨床工学技士会との共催にて Clinical Engineering に関する特別セッションを開催いたしました。また、2022 年 6 月 12 日~17 日にシンガポールで開催される、IUPESM World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering 2022 (IUPESM WC2022)の企画に協力しております。2020 年 10 月 17 日(土) にオンラインで開催された IFMBE Council of Societies 会議にも参加し、各国学会の状況の情報交換も行いました。

生体医工学という学問・研究領域が、一般市民に対し「発展的存在感」となるような基盤作りを目標とする活動も行っており、具体的には、生体医工学という学問・研究領域が、中高生と中心とした一般市民のみならず、臨床工学を目指す高校生や臨床工学技士養成施設に在籍する学生諸氏を含めてどのように認知、理解されているかについて調査・分析を行っております。その結果を取りまとめ学会へ提言していき、またこれまで行ってきた模擬授業について発展的に継続していくことを目途に、学会 Web 等を通じた広報戦略について検討を行っております。

留意点としては、前年度の利益相反委員会で策定されたCOI指針・細則・申告書書式を整備し、理事会での承認を得ております。承認されたCOI指針・細則が次期大会や新たな投稿から実施されるように依頼もすすめております。

- II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

臨床工学技士の職域における医工学研究での連携

在宅での循環補助及び血液透析の普及が進みつつあることから、在宅での循環補助並びに血液透析に係る管理運用が、将来的には臨床工学技士の職域に含まれてくることが予想されます。

そこで、人工臓器学会及び日本在宅透析学会と連携し、臨床現場からの医工学的なニーズを提供して頂き、これに基づいて研究としての可能性を検討する機会を提供する目的で、WGの下に専門別研究会として在宅人工臓器治療研究会を立上げ、京都大会において第1回のシンポジウムを合同で開催いたします。

[貴学会からの期待・要望]

貴学会から日本医学会に期待すること、日本医学会への要望について記載してください。

特にございません。